

一 次の文章を読んで後の問に答えよ。

技を盗む力は、単なる模倣とは全く異なる。上辺だけを模倣して、本質を盗み忘れるということはよくある。極端な例は、有名なスポーツ選手のファッションや仕事をまねして、その技を全く盗まない場合だ。そこまで極端ではなくても、表面に現れたパフォーマンスをそのまま真似して満足してしまうのも単なる模倣であり、技を盗むということではない。

技を盗む力の根本は、暗黙の内におこなわれている事柄を認識し、表面化させるといふ作業である。そして、その表面に浮上させた認識を、もう一度自分の身体に沈み込ませて技としていく。そうしたプロセスができていく。そして、技を盗むということができる。

技を盗む力は、「暗黙知（身体知）をいかに明確に認識するか」にかかっている。これに関して、野中郁次郎・紺野登『知識経営のすすめーナレッジマネジメントとその時代』（ちくま新書）はaシ峻にあふれている。この本によれば、「企業の知識の多くが暗黙知なのであり、それをどのように活性化し、形式知化し、活用するかのプロセスこそが重要だといえる」ということだ。暗黙知と形式知の循環するサイクルを作ることが、知識を創造していく上での最大のポイントだという。

「身体的で本能的なレベルでの知識（暗黙知）を持っていないければ、b迅ソクにかつ高度なパフォーマンスを発揮することはできません。ただしこうした知識を得たり、伝えるには時間がかかります。そこでは、マニュアルなど（形式知）が意味を持つてくる」ということになる。

技を盗む力は、暗黙知を自分の認識力で自分にとつての形式知とし、暗黙知へと染み込ませるといふ作業である。暗黙知と形式知を循環させた企業のエピソードとして、野中郁次郎・竹内宏高『知識創造企業』（梅本勝博訳、東洋経済新報社）にもいろいろ話が載っている。

松下電器が自動パン焼き機（ホームベーカリー）の開発に取り組んだときのことである。「イーजीリッチ」という事業部全体を広報化するコンセプトをめぐって、従来手作業で行われていた技術を機械化するための開発が進められた。しかし、開発を進めていく過程で、熟練パン職人の焼いたパンと自動パン焼き機で焼いたパンとは、どうしてもおいしさに差が出てしまうことが明らかになった。

そこで会社のソフトウェア担当の田中郁子さんという女性が、熟練したパン職人の練りの技術を学ぶために、大阪で一番おいしいパンを出すという評判の店のチーフ・ベーカリーのところで訓練を積ませてもらうことになった。田中さんは自分とチーフ・ベーカリーの作るパンの違いの大きさに驚きながら、一体どこが違うのだろうかという意識をもってチーフ・ベーカリーの練りの技術を見抜く努力を続けた。

熟練したパン職人は、自らは大変高度な練りの技能をcク使しているが、必ずしもそれを言語化することは得意ではない。その職人さんの持つ高度な暗黙知をエンジニアに伝えていくdバイ介の役割を、田中さんは果たす。田中さんは「ひねり伸ばし」という言葉で職人さんの技能の重要な部分を1概念化した。

エンジニアたちは、彼女が出してきた「ひねり伸ばし」というコンセプトの意味をくみ取って、その動きを現実のものとするために、容器の内側に特殊なうねをつけた。このうねがつけられたことによって、パン生地を練るへらが回転するとき、パン生地につかかって伸びるのである。「ひねり伸ばし」という言葉によって、暗黙知が表面に浮上し、それを現実のものとする動きが生まれたのである。

それに加えて、田中さんがエンジニアにア対して、「もつと強く回転させて」とか「もつと早く」といったような指示を適宜与えることによって、自分の暗黙知をエンジニアに伝え、エンジニアがそれに応じてハードのe仕ヨウを調整した。そのうえでエンジニアたちもパン生地の感触を得るために、チーフ・ベーカリーのところへ行き、経験を共有した。こうした試行錯誤のプロセスを数ヶ月間続けたのちに、ハイレベルの商品が誕生した。

技を盗むコツは、この「暗黙知」と「形式知」の循環を技化することにある。2この循環には的確な（要約力）や職人さんたちに対する（質問力）、（コメント力）などが大きな力を発揮する。

齊藤孝 「『できるひと』はどこがちがうのか」による

問一 傍線部a～eのカタカナ部分の漢字を含む熟語として適当なものをそれぞれ①～④の中から答えよ。

解答番号 a 1 b 2 c 3 d 4 e 5

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|
| a | ①思想 | ②指針 | ③伺候 | ④教示 | b | ①促進 | ②早速 | ③即席 | ④拘束 |
| c | ①先駆 | ②苦学 | ③供物 | ④警句 | d | ①謀略 | ②虫媒 | ③煤煙 | ④某日 |
| e | ①西洋 | ②用紙 | ③文様 | ④要因 | | | | | |

問二 この文章で言われている「暗黙知」の説明として適当なものを次の①～④の中から答えよ。 解答番号⑥

- ① 師匠から弟子へ、親から子へ門外不出のこととして伝えられてきた技の本質
- ② 企業や会社などで部外者には秘密裏に共有されている企業独自の知識
- ③ 誰から受け継いだわけでもなく生来の身体的で本能的なレベルでの知識
- ④ 技を持っている人の肉体の感覚の中で体得され言葉では表現されない事柄

問三 この文章で言われている「形式知」の説明として適当なものを次の①～④の中から答えよ。 解答番号⑦

- ① 身体に覚え込ませている技能を言葉で説明したもの
- ② 企業秘密をその組織の中だけで循環させたもの
- ③ 身体的な技術を企業として商品化するための知恵
- ④ 高度なパフォーマンスを発揮するための能力

問四 傍線部1の「概念化」の説明として適当なものを次の①～④の中から答えよ。 解答番号⑧

- ① 試行錯誤をすること
- ② 職人技を実演すること
- ③ 言葉として表すこと
- ④ 心の中で技を理解すること

問五 傍線部2に「この循環には的確な〈要約力〉や職人さんたちに対する〈質問力〉、〈コメント力〉などが大きな力を発揮する。」とあるが、「技を盗む」ために根本的なものとして適当なものを次の①～④の中から答えよ。

- ① 暗黙知と形式知のサイクルをエンジニアと開発者が共有すること
- ② 職人に弟子入りしてその細かな技術をすべて伝授してもらうこと
- ③ 職人の技を本当に模倣する技術を獲得し、それを仲間に伝えること
- ④ 口では説明できない職人の細かな動きや気遣いをよく見て感じ取ること

解答番号⑨

問六 この文章でいう「技を盗むこと」の説明として適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号⑩

- ① 職人が他人に教えたくない熟練した秘伝の技を多くの人が体験して学び、それを工業的に生産し商品化すること
- ② 職人が教えてくれない熟練した技をよく観察して理解し、マニュアル化して誰でも同じ技が使えるようになること
- ③ 相手から教えてもらうのではなく、相手が体得している技を洞察し、それを自分で体得して技として身につけること
- ④ 手取り足取り教えてもらうことのできない高度な技を秘密裏に入手し、それを企業で共有して工業的に再現すること

二 次の文章を読んで後の間に答えよ

或る時、大阪行き急行の食堂車で、遅い晩飯を食べていた。四人掛けのテーブルに、私は一人で坐っていたが、^{注1}やがて、前の空席に、六十×格好の、上品な老人夫婦が腰をおろした。

細君^{注1}の方は、小脇に何かを抱えて入って来て私の向かいの席に着いたのだが、aソデの陰から現れたのは、横抱きにされた、おやと思う程大きな人形であった。人形は、背広を着、ネクタイをしめ、^{注2}外套を羽織って、外套と同じ縞柄の烏打帽子を被っていた。着附の方は未だ新しかったが、顔の方は、もうすっかり垢染みてテラテラしていた。眼元もどんよりと濁り、唇の色も褪せていた。何かの拍子に、人形は帽子を落とし、これも薄汚くなった丸坊主を出した。

細君が目くばせすると、夫は、床から帽子を拾い上げ、私の目が会うと、ちよつとb工釈して、車窓の釘に掛けたが、それは、子ども連れで失礼とでも言いたげなこなしであった。

もはや、明らかなことである。人形は息子に違いない。それも、人形の顔から判断すれば、よほど以前のことである。一人息子は戦争で死んだのであろうか。夫は妻の乱心を鎮めるために、彼女に人形を当てがったが、以来、二度と正気には還らぬのを、こうして連れて歩いている。多分そんな事か、と私は思った。

夫は旅なれた様子で、ボーイに何かと注文していたが、今は、おだやかな顔でビールを飲んでいる。妻は、はこばれたスープを一匙すくっては、まず人形の口元に持って行き、自分の口に入れる。それを繰返している。私
は手元に引寄せていたバタ皿から、バタを取って、彼女のパン皿の上に載せた。彼女は息子にYかまけていて、
気が附かない。「これはcキョウ縮」と夫が代りに礼を言った。

そこへ、大学生かと思われる娘さんが、私の隣に来て坐った。表情や挙動から、1若い女性の持つ鋭敏を、私
は直ぐ感じたように思った。彼女は一目で事を悟り、この不思議な会食に、素直に順dノウしたようだった。
私は、2彼女が、私の心持まで見てしまったときえ思った。これは、私には、彼女と同じ年頃の一人娘があるた
めであらうか。

細君の食事は、二人分であるから、(A)進まない。やっとスープが終わったところである。もしかしたら、
彼女は、全く正気なのかも知れない。身についてしまった習慣的行為かも知れない。とすれば、これまでになる
には、周囲の浅はかな好奇心とずい分戦わねばならなかっただろう。それほど彼女の悲しみは深いのか。

異様な会食は、極く当り前に、静かに、敢えて言えば、eナゴやかに終わったのだが、もし、誰かが、人形につ
いて余計な発言でもしたら、どうなったであらうか。私はそんな事を思った。

小林秀雄『人形』による

注1 細君(妻のこと) 注2 外套(オーバーコート)

問一 傍線部a～eのカタカナの部分の漢字として最も適当なものをそれぞれ選んで答えよ。

解答番号 a 11 b 12 c 13 d 14 e 15

a	ソデ	①袂	②袖	③襟	④裾	b	工	①得	②柄	③会	④恵
c	キョウ	①恭	②強	③協	④恐	d	ノウ	①能	②脳	③惱	④応
e	ナゴ	①和	②温	③緩	④健						

問二 傍線部X、Yの言葉の意味として最も適当なものをそれぞれ選んで答えよ。解答番号X 16 Y 17

X	格好の	①体裁	②形	③ぐらい	④ころあいのよい
Y	かまけていて	①巧みに問いかけて	②心をとらわれて	③身構えて	④かしづいて

問三 (A)の中にはいる言葉として最も適当なものを次の①～④の中から選んで答えよ。

解答番号 18

① 遅々として ② 延々として ③ 累々として ④ 嬉々として

問四 この文章で「妻」の「一人息子」に対する真情が最も強く出ている場面として最も適当なものを次の①～③の中から選んで答えよ。解答番号 19

① 大きな人形を抱いて席に着いた場面
② 人形の帽子が落ちたのでそれを拾うように夫に目くばせした場面
③ スープを一匙一匙すくっては人形の口に持って行く場面

問五 傍線部1「若い女性の持つ鋭敏を、私は直ぐ感じたように思った。」とあるが、この「鋭敏さ」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。解答番号 20

① 突然遭遇したことでも瞬時に状況や心理を洞察しその状況にふさわしい言動ができること
② 不特定多数の人が食事をするような所では慎ましく振る舞い、礼儀にかなった行動ができること
③ 年長者と同席する場合は年長者に敬意を払うことが自然と身に付くような教育を受けていること
④ 自分にとって都合のよくない状況になった場合、我関せずという態度をとることができること

問六 傍線部2「彼女が、私の心持まで見てしまったとさえ思った。」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から選んで答えよ。
解答番号 21

- ① 大学生かと思われる娘が、心のゆがんだ妻を人目にさらして平気な夫に私が感心していることを見透かしている
 - ② 大学生かと思われる娘が、精神病の妻の奇異な行動に困惑している夫に私が憐憫の情を催していると察知した
 - ③ 大学生かと思われる娘が、精神障害のある人妻の奇異な行動を私が冷然ととらえていることを看破した
 - ④ 大学生かと思われる娘が、心を病んだ相席の人妻の奇異な行為を私が素直に受容していることを洞察した
- 問七 この文章のテーマとして最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。
解答番号 22

- ① 他人の深い悲しみを想像力によって理解し、それを敢えて言葉にしないことで相手を庇護する強い優しさ
- ② 人の悲しみは本人しか分からないのに、人の心の中に無神経に入り込んで人を傷つけることに対する警告
- ③ 深い悲しみは他人はもとより夫婦ですらも共有できず人間とは本来絶対的な孤独の存在であるということ
- ④ 空爆などによって大切な一人息子を奪われ何年経っても癒えることのない心の傷害を受ける戦争の悲惨さ

三 次の(ア)～(ク)の文に漢字を入れて慣用句を完成させよ。後の①～⑨の中から選び答えよ。

- (ア) が肥える 解答番号 23
 良いものを見慣れて、善し悪しを見分ける力がある
 (イ) を進める 解答番号 24
 その話に乗り気になる
 (ウ) が出る 解答番号 25
 赤字になる
 (エ) を割る 解答番号 26
 本心を話す
 (オ) が回る 解答番号 27
 細かい点まで世話が行き届く
 (カ) の下が長い 解答番号 28
 女性に甘い
 (キ) を糊する 解答番号 29
 やつと生活をする
 (ク) が浮く 解答番号 30
 軽薄な言動を見聞して不快になる

- ① 胸
- ② 目
- ③ 口
- ④ 足
- ⑤ 膝
- ⑥ 歯
- ⑦ 鼻
- ⑧ 手
- ⑨ 腹

四 次のア～ケの熟語の□の中に漢字を入れて四字熟語として完成させよ。後の①～⑨の中から選び答えよ。

- ア 不俱戴□ 解答番号 31
 イ 同工異□ 解答番号 32
 エ 一衣帯□ 解答番号 34
 オ 故事来□ 解答番号 35
 キ 佳人薄□ 解答番号 37
 ク 一刀両□ 解答番号 38
 ウ 泰然自□ 解答番号 33
 カ 奇想天□ 解答番号 36

- ① 若
- ② 金
- ③ 命
- ④ 断
- ⑤ 曲
- ⑥ 水
- ⑦ 外
- ⑧ 天
- ⑨ 歴

五 次の表は明治時代の小説・評論を記したものである。空欄A～Hに当てはまる著作者として適当なものを後の①～⑨の中から選び答えよ。

時代	作品	(ジャンル)	著作者
明治時代	西洋道中膝栗毛	(小説)	仮名垣魯文
	学問のすゝめ	(評論)	「A」
	当世書生気質	(小説)	坪内逍遙
	小説神髓	(評論)	坪内逍遙
	浮雲	(小説)	二葉亭四迷
舞姫	(小説)	森鷗外	
五重塔	(小説)	「B」	

解答番号 39
 解答番号 40

内部生命論	(評論)	北村透谷	解答番号	41
たけくらべ	(小説)	「C」		
金色夜叉	(小説)	尾崎紅葉		
武蔵野	(随想)	国木田独步		
不如帰	(小説)	徳富蘆花		
高野聖	(小説)	「D」	解答番号	42
病床六尺	(随想)	「E」	解答番号	43
吾輩は猫である	(小説)	夏目漱石		
野菊の墓	(小説)	伊藤左千夫		
破戒	(小説)	「F」	解答番号	44
蒲団	(小説)	「G」	解答番号	45
何処へ	(小説)	正宗白鳥		
すみだ川	(小説)	永井荷風		
網走まで	(小説)	志賀直哉		
刺青	(小説)	「H」	解答番号	46
徼	(小説)	徳田秋声		
善の研究	(評論)	西田幾多郎		

- ① 幸田露伴 ② 田山花袋 ③ 泉鏡花 ④ 正岡子規 ⑤ 谷崎潤一郎
 ⑥ 福沢諭吉 ⑦ 石川啄木 ⑧ 樋口一葉 ⑨ 島崎藤村

六 次の各文の()に入る言葉として最も適切なものをそれぞれの①～④から選んで答えよ。

1 こと漢文については彼女は常にクラスで一頭地を()いる。
 ①越えて ②現して ③這って ④抜いて
 解答番号 47

2 吉田松陰の門下には春秋に()若者がその教えを請いに集まった。
 ①澄む ②富む ③挑む ④絡む
 解答番号 48

3 あの人の最近の言動は常軌を()ものだと言わざるを得ない。
 ①逸した ②逃した ③忘れた ④通した
 解答番号 49

4 歯の根が()一程の極寒の中を、探検隊は北極点に到達した。
 ①抜けない ②付かない ③合わない ④生えない
 解答番号 50

5 家族が路頭に()一ことがないように懸命に働く。
 ①恥じる ②惑う ③出る ④迷う
 解答番号 51